



Tanabe East Rotary Club in 2015-16

2015-16年度RI会長: K.R. ラビンドラン
 第2640地区ガバナー: 辻 秀和
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 坂本 正人
 幹事: 畔田 実
 会報: 本田 耕二 委員長

例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
<http://tanabe-east-rc.com/>
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~
 ビジターフィー ¥2,000



○本日の唱歌

「君が代」「奉仕の理想」 唱歌委員 小川 豊介 君 (田辺RC)



○ゲスト

◇2640地区 ガバナー

辻 秀和 様



ガバナー補佐

矢倉甚兵衛 様 (串本RC)



パストガナー

村上 有司 様 (田辺RC)



地区幹事

澤田 雅之 様 (粉河RC)



○出席報告

会員数 47名 義務免除 3名 本日の欠席者 9名
 出席率 81.82 % 1月13日の修正出席率 97.67 %

○会長報告

木村頼文 (田辺RC)



お越し下さいました。今日はどうぞ宜しくお願いします。

■例会開始前に、辻ガバナーと7クラブ合同会長幹事懇談会を行いました。

■1月18日に、米国サンディエゴで開催された国際協議会において、ジョンFジャーム国際ロータリー会長エレクトにより、2016-17年度のテーマが発表されました。

「人類に奉仕するロータリー」です。

■本日は、2015-2016年度ガバナー公式訪問を7クラブ合同例会にて行います。

今回、田辺クラブが担当させていただいておりますので代表して会長報告をさせていただきます。

辻 秀和ガバナー、矢倉甚兵衛ガバナー補佐、澤田雅之地区幹事におかれましては遠いところようこそ



四つのテスト: 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム

ガバナー公式訪問

2640地区 ガバナー



辻 秀和 様

会員皆さまのご理解と寛容の精神で、ここまでのどり着きました。改めまして、本日より地区本来のロータリーの第一歩と考えております。決して、後戻りさせてはいけません。常に言動は『四つのテスト』を念頭において行ってゆきたいものです。私たちはロータリアンです。冒頭に、重要なこととして各会員の皆さまにお伝えいたします。

< R I への確認事項 >

- 1、DGとして本年度 1月サンディエゴ国際協議会の補講が免除。
- 2、DG 就任時期での、会長エレクト研修セミナー (PE TS) 開催不要。
- 3、地区研修・協議会も開催不要。ただし、いずれかの会議にて、一度は、ガバナーアドレスが必要。それは、先 (10月10日) の会長会議で、充当いたしました。

私は ; DGN、DGE、DG時代をとうして、機会あるたび皆さまに語りかけてきました。その内容は、次の事柄です。新鋭のロータリアン、経験豊かなロータリアン、多くの皆さまはすでに実践されておられますが、今一度お考えいただきたいと思えます。

- * 皆さまご自身が得たロータリーでの体験は「宝物」です。それを自分だけのものとせず、社会にもっともっと積極的に役立たせよう!!
- * ロータリアンの皆さまは、自身の体験を新世代の若者たちに、機会を設けてもっと積極的に、しかも、わかりやすく伝えよう!!
- * 幾つになっても体力ある限り、新世代と共に、汗を流して活動しよう!! これが、1982年河内長野RCに入会以来、ロータリーで学び、よき仲間と共に実践し、変わる事のない、私のロータリアンとしての信条です。

- 1、日本と近隣諸国との関係
- 2、2015 - 2016年度国際大会 (オンツォー・ソウル)
- 3、多様性豊かな国際的民間組織としての真価
- 4、日韓のより密接な友好関係の構築
- 5、『超我の奉仕』

1、日本と近隣諸国との関係

昨今、日本を取り巻くアジアの情勢を見渡すと、特に隣国の中国と韓国との関係が、なかなかうまく運びません。良好ではないのです。しかし、昨年暮れに慰安婦問題でやっと日韓の合意が成立。

(2015/12/28) 前途多難ではあるが、明るい兆しが見えてきました。

2、2015 - 2016年度国際大会 (オンツォー・ソウル)

今年年度 国際大会は、韓国ソウルで開催されます。

3、多様性豊かな国際的民間組織としての真価

このような時節こそ、ロータリーがグローバルな、しかも多様性豊かな民間組織としての真価が問われます。ロータリーの国際大会が韓国・ソウルで開かれることを契機として近隣諸国との融和のため、両国の捻じれ纏れた関係の解決の糸口を見出すためにもロータリーが、多様性豊かな民間組織として、更なる友情交換・相互理解を促進し、より緊密な友好関係を韓国のみならず、多国間にわたり築き上げたいものです。

4、日韓のより密接な友好関係の構築ロータリーの多方面・多業種にわたる優秀な人材や人脈を駆使して推し進められる日韓友好関係の深まりは、両国に必ず計り知れないプラス効果をもたらします。それは、東アジアのみならず、アジア全体そして世界全体の平和に大きく貢献できます。

5、『超我の奉仕』

世界の平和とよりよい2640地区の実現のためには、会員みなさまの「超我の奉仕」なくしては実現できません。多くの皆さまのご理解とお力添えが必要となります。2015 - 16年度の地区テーマに、ロータリーの第1標語「超我の奉仕」を掲げました。今一度原点に戻り、未来に向けてR I 2640地区が再出発をするためにも、時には己を捨てて、社会のために奉仕活動を推し進めたいものです。

“地区青少年活動のステップ・アップのため

ロータリー平和フェローへの道筋を切り開く!!”

ロータリー平和センターの正式名称は ;

「平和及び紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリーセンター」

このロータリー平和センターは、教育と平和に関してロータリー財団で特に優先される主要プログラムである。財団は、世界の名門大学と提携し、これを設立。財団は、ロータリー平和センターにおいて、1~2年間の修士課程又は3か月間の終了証取得プログラムで国際問題、平和、紛争解決を研究するためのロータリー平和フェローシップを提供する。

(ロータリー財団章典13.010.1.)

当地区予算で、最も多く占めるのが青少年関連予算です。青少年健全育成や国際感覚豊かな才能ある人材を育てるために、とても重要な予算です。それをより有効的かつ有意義に生かすため、またその活動内容をより充実させるためにも、地区内で青少年活動の拡大の必要性があります。単に、予算を増加させるとか削減させるのではなく、今後なにを優先し、節約することも含めて、予算の配分を考えるとということです。

ロータリーの極限の目標は『世界平和』とするならば、このロータリー平和フェローというハードルの高い、才能あふれるしかも直接平和活動に貢献しうる人材育成にも、地区として取り組むべきと考えております。

当地区から平和フェロー誕生という『夢』のようなことを実現するのも、地区運営の大切な役目と考えます。今後その論議も深めてゆきたいと考えております。

平和フェロシップについて；

世界の平和を築き、紛争の予防と解決に貢献する人材育成です。地区青少年関係プログラム参加者の次の目標となりうる。

- *地区はフェロシップの資金を拠出する必要はありません。
- *地区が推薦できる候補者の数に制限はありません。
- *本年度地区での申請書提出締切は、2016年5月31日です。
- *地区は2016年7月1日までに、候補者の面接を実施し、R-財団へ推薦書式を提出する。

【候補者探し】：

- ・ロータリープログラム学友（ローターアクト、インターアクト、青少年交換留学生、国際親善奨学金の元参加者など）
- ・国際ボランティアの元参加者（海外青年協力隊に参加した人、海外での平和活動経験者、青年の船舶ボランティアなど）
- ・大学（同窓会、就職相談課、留学支援課、国際関係/政治/平和研究の学科など）
- ・NGO、国際開発援助団体、政府機関など

「平和のためにできること」

平和フェロー候補者を推薦して親善と文化理解を促進

クラブにもメリット!!

候補者の募集と推薦を通じて、意欲ある若者との関係を築き、「平和に貢献できる若きリーダーの育成」というロータリーの使命を促進できます。

“日韓親善と国際奉仕のあり方を考えるためにある事例を紹介したいと思います。”

四十八年前、ある青年が学生時代に仲間とともにアルバイトをして資金作りに励み、四年間にわたり、夏休み（2か月）を通じて、隣国韓国（慶州市郊外の希望村）にあるハンセン病患者たちの社会復帰村で奉仕活動を行い、同時に戦前の韓国（群山）における日本人開拓村の調査を行いました。

*日本では、岡山県瀬戸内市の長島にあるハンセン病の日本最初の国立療養所・長島愛生園が中心となって、施設群の世界遺産への登録を目指している現代の状況があります。

（読賣新聞；記事2015年12月30日付）

“ロータリーの皆さまと新世代の若者たちへ

伝えたい!!”

- 1、報道されていない両国間の素晴らしい人的交流の一面。
- 2、戦前の日本は、隣国の荒野を開拓して耕地面積を拡充し、日本式稲作を普及し、現地の食糧確保に大きく貢献した。
- 3、終戦とともに日本人開拓民は帰国するが、当時の家族の生活態度・労働意欲・文化意識など、日本及び日本人のいいところが、たくさん語り継がれている。
- 4、現代あった近隣諸国や人々との交流のあり方を考える。
- 5、ロータリーにおける青少年プログラム（Youth Exchange・RYLA・RAC・IAC）のあり方を考える。
- 6、ロータリー財団学友や米山記念奨学会学友のあり方考える。
- 7、地区における、ロータリー平和フェローへの道を切り開く。

「国際奉仕のあり方」

事例：“ある青年の国際奉仕活動”

- *学生の“希望村”での4年間にわたる夏休みの活動。
- *韓国でのハンセン病患者の社会復帰村での奉仕活動。
- *ハンセン病患者の村で生活を共にする。
- *おもに、不自由な体での村人の農作業を手伝う。
- *村人の求めに応じて、日本農業や土木技術を駆使し、お役に立てる。
- *村人に学生が感謝され、信頼関係が生まれる。
- *友好的な交流が進んでゆく。

“希望村での奉仕作業と日本人開拓村の学習”

- *共同生活に慣れてくる。
- *日本で報道されている事実とは異なる戦前の様子や情報が伝わってくる。

- *奉仕作業の終盤、戦前日本人開拓村調査に出かける。
- *日本人開拓村跡地の存続と戦後の様子を記録する。
- *ずいぶんと感謝されている。
- *帰国した日本人開拓者を、特定して訪問し報告する。
- *その調査を専門分野で卒論としてまとめる。
- *国内の元開拓村の住人が集まり、30年ぶりの訪問へ。
- *戦前の韓国村人と再会、大歓迎され、旧交を温める。

戦前の21年間で、開拓村で築き上げた国際的信頼関係は、戦後30年経過しても、両国の開拓民たちの間では、何ら変わることなく、その交友関係はそのままであった。

「感謝のことば」

論語の孔子の言葉に『温故知新』とあります。
 “ふるきをたずねて新しきを知る、
 よって師となすべし。”

- *日頃の疑問を解消する。
- *ロータリーをより好きになっていただく。
- *ロータリーファミリーや他の皆さまをロータリーに誘っていただく。
- *友人・知人の方にもすすめていただく。
- *また、ロータリアン一人一人の意見を尊重することも、大切です。
- *汗をながして、行動しよう!!
- *最後に、やはりロータリーは『理論から実践へ』。

本日は、公式訪問ガバナーアドレスを、ご静聴賜り心から感謝申し上げます。
 今後ともご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

DG 辻 秀和



韓国 慶尚北道 慶州市郊外「ハンセン病患者社会復帰訓練施設」

『希望村』



学生奉仕団体験記録 昭和45年7月～48年8月

河内長野RC 辻 秀和

ロータリーの友抜粋2016年1月号

雑誌担当 上原俊宏

酒の話題ふたつ。

特に味わい深い日本酒を堪能するのは中年以後の日本人に多いとされる。しかし、現実には酒をたしなむ人が年々減少しているという。ところが世界で見ると、①日本が好きなこと、②お金があること、③健康嗜好の人、④ワインを飲む人 は日本酒を好むことが経験的にわかった。として、東北二戸の酒蔵：南部美人五代目蔵元の久慈幸介氏が世界へ向けて同社の「南部美

人」を広く紹介して販路を拡大している、という講演を国際ロータリー第2520地区の第二分区のIMで行った。その中に、彼は、和歌山県のみなべの梅を用いて、砂糖を使わない梅酒を製造していると云う話もある。田辺人には必見の巻頭言（p4.）であろう。さらに、卓話の泉には、東京武蔵野中央RCの荘 茂登彦氏：（有）荘酒店 代表取締役が、酒についての蘊蓄を傾けた記事をのせている（p18）。共に、酒の話。酒飲みには必読の話題記事となるであろう。ちなみに、南部美人、純米吟醸1800ml：¥6085 である。

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか